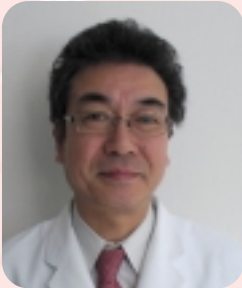


与謝の海病院NEWS

平成25年1月
Vol.131

～ 患者が中心の、地域に開かれた病院 ～

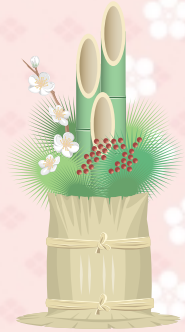
京都府立与謝の海病院
〒629-2261
京都府与謝郡与謝野町字男山481
電話/FAX 0772-46-3371 (代表)
<http://www.pref.kyoto.jp/yosanoumihp/>



年頭のごあいさつ

京都府立与謝の海病院

院長 せき もと たつ ゆき
関 本 達 之



平成25年の新春を迎え、皆様方のご健康とご多幸を心より祈念いたします。

さて新政権のもとで迎えました今年が幸せに満ちた新たな時代の幕開けになることを期待いたします。民主党政権からまた自由民主党を中心とした政権に代わったわけですが、昭和30年代から40年代の高度成長期の政権も自由民主党でした。あの頃はありとあらゆる日本人の夢が現実になっていくかのように当時の私には思えました。しかし約20年前のバブル崩壊以降、誰がなにをしようが、日本の国力を根本的に立て直すことはかなわず、また高度成長期に作られたたくさんの「もの」が、時代の流れの中、多くのほころびを露呈し始めています。今回、自由民主党を中心とする政権に代わったわけですが、「戻る」ことであってはならず、「進化」したものでなければ日本の未来はないでしょう。

先日読んだ生物考古学とでもいうような生物進化の本（「人体 失敗の進化史」 遠藤 秀紀 著）の中に次のようなことが書かれていました。身体を支え、動かし、護ることが主たる役割である骨というものは、リン酸を体内に貯留する目的としたものから派生したものだとの説があります。また四肢は古代の魚類のヒレが進化したものとされていますが、最初から陸上を移動するために変化したのではなく、より力強くまた巧みに泳ぐために変化していったが、陸上生活にふさわしい四肢に何万年、何億年という単位で進化してきたものであるといわれています。すなわち、「進化」というものは、最初の目的や計画から時代に合わせて少しずつ変化し、有用なものを獲得していくというふうに考えることができます。

平成25年4月、京都府立与謝の海病院は、京都府立医科大学附属北部医療センターとなります。京都府立医科大学附属北部医療センターの今後の展望は、基本的な診療体制を変更することではなく、救急部門や総合診療機能を強化し、大学附属病院としての教育・研修・研究部門を始動させていくことと想定されています。これらの目標として定められた事柄のみへ変わっていくことを目指すだけでなく、時代に即した対応も行い、この地域のニーズに応えられる医療機関に「進化」していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

【第131号の内容】



- 1 ページ ● 院長の年頭あいさつ
- 2～3 ページ ● 附属病院化について
- 4 ページ ● 副院長就任のあいさつ ● 一口レシピ
- 5 ページ ● ナースのお仕事2 ー山添幸子 看護師長ー
- 6 ページ ● 診察室 ー整形外科ー ● 診療科 ー薬剤部ー
- 7 ページ ● 地域連携室「かけはし」 ー緩和ケア研修会開催ー
- 8 ページ ● 外来各科診察担当医表 ● 医師異動情報

京都府立与謝の海病院は 京都府立医科大学附属 北部医療センター (通称：与謝の海病院) に生まれ変わります。

京都府議会平成24年12月定例会で、京都府立与謝の海病院は京都府立医科大学の附属病院となることが決定しました。

平成25年4月に、「京都府立医科大学附属北部医療センター」として、また、北部地域の中核病院として、これまで以上に充実した医療を府民の皆様を提供できるよう新たなスタートを切ります。

なお、これまで多くの皆様方に親しまれた「与謝の海病院」の名称は、通称として引き続き使用します。

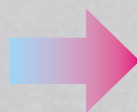
1 目指す方向

- 総合医療と高度医療を充実させて丹後地域の中核病院としての役割を果たします。
- 地域医療を教育研究する場として府北部地域を活用し、総合診療力を備えた人材を養成し、医師派遣の強化等に取り組み、全国から地域医療を志す優秀な若手医師が集まる魅力ある病院づくりを進めます。

こうした取組を進め、府北部地域における高度な医療提供体制の充実を図ります。

2 経営形態

自治体立病院
(開設者：京都府)



京都府公立大学法人の病院
(地方独立行政法人である京都府公立大学法人が
運営する京都府立医科大学の附属病院)

- <ねらい>
- ・ 自立的・弾力的な経営を行い、権限と責任を明確にする。
 - ・ 京都府立医科大学との連携を強化する。

(地方独立行政法人とは、)

住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施されることが必要な事務及び事業であって、地方公共団体が自ら主体となって直接に実施する必要のないもののうち、民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるものと地方公共団体が認めるものを効率的かつ効果的に行わせることを目的として、この法律の定めるところにより地方公共団体が設立する法人

(地方独立行政法人法 第2条より抜粋)

3 地域の医療体制を充実させる方策

- 総合診療力を備えた医師を養成するために、地域医療学講座を設置します。
- 地域ニーズの高い救急医療を充実させるために、救急室を拡張し整備します。
- 地域医療支援病院としての機能を更に発揮するため、地域の病院・診療所との連携を推進します。
- 高度医療を充実させるために、京都府立医科大学附属病院と連携します。
- 地域の医療機関への医師派遣機能を充実させます。

附属病院化に向けた工事の状況

～平成25年1月から 救急室拡張工事に着手～

着手した主な工事**○救急室拡張、内視鏡室、エコー室の充実**

救急室拡張工事に着手し、内視鏡室を移転させ、検査を受けていただく環境を改善します。

○研究室の整備

京都府立医科大学の附属病院となることに伴い、医師が研究できる施設にします。

(お願い) 工事中は病院ご利用の皆様には、大変ご不便をお掛けしますが、ご理解、ご協力をお願いします。



副院長就任のごあいさつ

京都府立与謝の海病院

副院長 おち あい としや
落合 登志哉

この度、京都府立医科大学 外科学教室 消化器外科学部門から当院副院長として赴任いたしました落合登志哉（おちあいとしや）です。学生時代はラグビー部に所属し、昭和61年に大学を卒業しました。その後大学の研修医、国立奈良病院、国立がんセンター中央病院、大阪鉄道病院勤務を経て大学院に進み学位を取得しました。1999-2000年にこの与謝の海病院に初めて赴任、外科医師として仕事をさせていただきましたが、その時以来ここ丹後の風土と住民の皆様の人柄に非常に懐かしいものを感じておりました。その後滋賀県木之本町公立湖北総合病院に異動し、大学に戻りました。大学では10年7ヶ月仕事をしましたが最終的には准教授を拝命し現在に至っております。専門領域は肝臓、胆道、膵臓の外科でこれまで1000例を超える症例を手術して参りました。この度の与謝の海病院赴任は私にとって2回目であり、各病棟には見知った方々が多数おられて大変温かく迎えていただきました。有難いことです。与謝の海病院は2013年より京都府立医科大学附属北部医療センター

に生まれ変わりますが、今まで通り「患者が中心の、地域に開かれた病院」として益々頑張っております。

副院長の肩書きは有りますが、スポーツで鍛えた体力を活かし、実診療をまず大事にするプレーイングマネージャーとして精進して参る所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。



おでん

与謝の海病院栄養管理課が患者様に提供しています、嚥下困難食（普通の形態をした食事が飲み込みにくい方）の食事を紹介します。

これからの季節に美味しくなる「おでん」の紹介です。

- 【作り方】① おでんの具材は大根、卵(白身と黄身別々)、こんにゃくです。
② ①の具材をそれぞれミキサーにかけ、固形化補助食品を入れて、固まる前に型取りします。

“患者様や家族様に喜んで頂ける様に”の気持ちで工夫して作ってみました。

※詳細は与謝の海病院栄養管理課まで連絡下さい。

ナースのお仕事 2

— 山添 幸子 看護師長 —



今回は集中治療室（ICU）看護師長の山添師長をご紹介します。
 [やまぞえ ゆきこ：平成8年4月から当院勤務、集中治療室は平成22年6月から]

質問1：看護師になろうと思った理由

山添：中学生の時に祖父が入院している病院で、テキパキと仕事をする看護師（当時は看護婦）さんの姿に憧れました。また「人のためになること」、「女性として自立した仕事」を意識していましたので迷いなくこの道を選びました。

質問2：看護師になって感じたことを教えてください

山添：最初の就職で配属されたのはリハビリの病棟でした。私は現在、何不自由なく日常生活を送っていますが、脳血管疾患などの後遺症が残った患者さんの一部の自由がきかなくなると、生活するうえでは本当に大変なことです。その病棟では、後遺症が残った患者さんが自立して、自宅退院が出来ることを目指して関わりました。更衣、食事など介助すればすぐに終わることで、自分でできるまで見守り、アドバイスするなど「待つ看護」の大切さを学びました。つい時間がかかりすぎる人には内緒で助けてあげる事もありました。……。本当に忍耐の新人時代だったと今では懐かしく思い出します。

そして、26歳の時、助産師の資格を取りました。現在は助産からは離れていますが、今まで数百の分娩を介助してきて、私がいつも目指していたのは主体的なお産で、「生んでよかった」「いいお産ができた」と産婦さん自身に思ってもらうことでした。

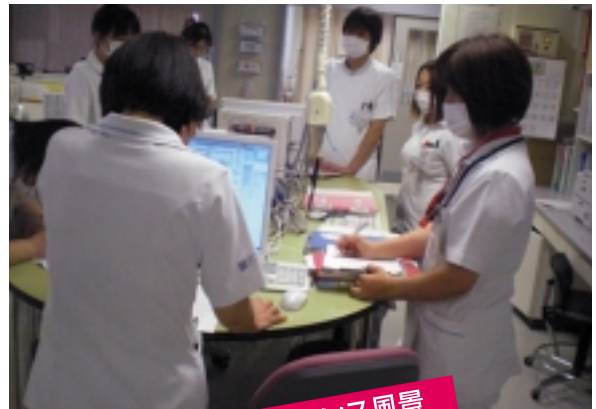
質問3：あなたのナースの仕事を教えてください

山添：現在勤務している部署は集中治療室（ICU）です。12床のベッド数で、全ての診療科の患者さんに対応しています。急性期で危機的状態にある患者さんが、一日でも早く安定した状態になって一般病棟へ移動できることを願い、日々チーム医療・連携で取り組んでいます。

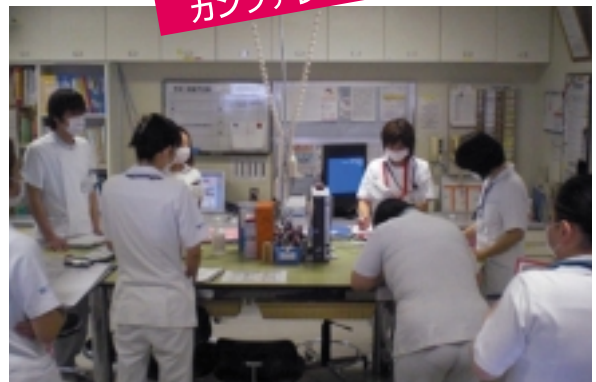
質問4：看護師として今一番感じることは何ですか？

山添：どのような職業であろうと接遇の善し悪しは問われます。私たちは看護によるサービスを提供していますが、一つひとつのケアが「相手の立場に立って」を意識して実践することが必要だと思います。

看護師としての、知識・技術を備える事はもちろん不可欠な事ですが、それに加え私が常に心がけている事は、タッチング・笑顔という最高の看護技術を、患者さんに提供していくことです。これからも、「与謝の海病院に来てよかった」、「またお世話になりたい」と思っていたく病院環境を備えていきたいと思っています。



カンファレンス風景



募集

一緒に働きませんか？ 看護師・薬剤師・視能訓練士・理学療法士

当院では現在、臨時的任用職員（看護師）、非常勤嘱託（薬剤師・視能訓練士）、臨時職員（看護師・理学療法士）を募集しています。条件等についてはお気軽にお問い合わせください。

年齢制限はございません。
給料は経験によります。



【お問い合わせ先】京都府立与謝の海病院 庶務課 ☎0772-46-3371 (代表)

診察室

「腰の障害」

整形外科 医長 とのむら 村 ひとし 仁



一生の間に多くの方が腰の痛み（腰痛）を経験すると言われています。内臓や血管の障害で腰痛が起きることもあります。主な原因は体を支えている骨、軟骨、筋肉といった運動器の障害です。腰には腰椎と呼ばれる五つ骨があり、骨と骨の間は椎間板という軟骨で連結されています。骨の周囲には背骨を支えるたくさんの筋肉がついています。上半身を支えているこれらの運動器に障害が起きると腰痛が生じます。

急に腰が痛くなった時はどうすればいいのでしょうか？ほとんどの場合は1～2週間で軽快します。痛みが強くなる姿勢を避けて無理をしなければ楽になってきます。痛みが和らいできたら、少しずつ動き出すことが重要です。しかし、次のような症状があれば整形外科医の診察を受けて下さい。①安静にしているでも痛みが強い、②腰だけでなく、お尻や足に痛みやしびれがある、③足に力が入

りにくい、④歩くと症状が強くなって立ち止まってしまう、などです。

診察をした上でX線撮影、MRI検査などを行い、状態に適した治療を行います。治療にはリハビリテーション、コルセットによる固定、お薬の投与、痛みを和らげるブロック注射、手術などがあります。

普段から正しい姿勢を心がけ、体操やストレッチを行って腰痛を予防しましょう。



診療科紹介

一 薬剤部

副薬剤長 しんくうひであき 新宮 秀昭



左の写真は手話で「薬」を表しています。「調剤」として、薬を混ぜているところです。しかし、今の薬剤師は、たくさんの仕事をしており、それは調剤、臨床、薬の管理などに分けられます。

なお、当院は院外処方せんを発行しており

薬剤部は入院患者さんを対象にしています。

1 調剤・製剤～むかしながらの基本業務

医師の処方せんにもとづき、薬（飲み薬も注射薬も）を患者さんごとに取り揃えて払いだしています。この時、使い方や量が正しいのかもチェックしています。ごくまれですが、「先生、薬の量が違うんですが……。」と問い合わせることも……。

また、抗がん剤の注射薬は細菌汚染のないように薬剤部で輸液に混合しています。

2 臨床（服薬説明など）～最近の重点分野

入院患者さんのもとを訪れて、薬の説明をしたり、副作用が起きていないかなどをみています。抗がん剤、

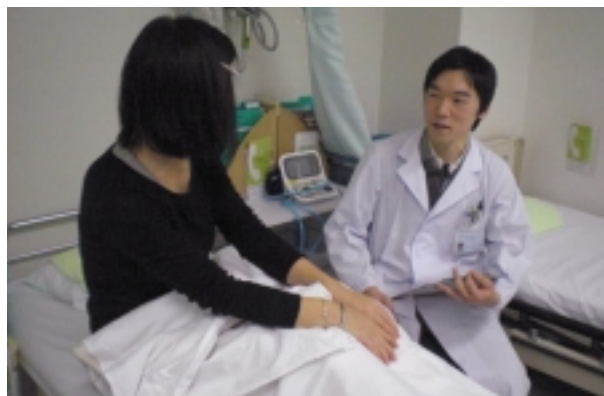
麻薬、糖尿病や心臓の薬等、注意のいるものを中心に対応しています。もし病室に訪問したら、「なぜ薬剤師がくるんだ？」と思わずに宜しくお願いします。

また、使い方の難しい薬は血液中の濃度を調べて量の変更案等を医師に連絡することもあります。

チーム医療にも薬剤師が参加しています。多くの職種の人と連携して薬剤師の知識を生かしています。

3 薬の管理（医薬品情報など）

薬の副作用などの情報は、日々新しくなるので、これらを医師など院内に知らせています。また、薬の自身調べなど院内からの質問にも答えています。



薬剤管理指導の様子

地域連携室 かけはし

当院で緩和ケア研修会を開催しました

平成24年11月10日(土)・11日(日)の2日間、与謝の海病院において、がん診療に携わる医師・看護師等に対する緩和ケア研修会を行いました。

当院の緩和ケアチーム・医事課職員の協力のもと準備を進め、京都府立医科大学・福知山市民病院・舞鶴医療センター・舞鶴共済病院の院外講師のご協力を頂き、当日を迎えました。単位制であることから1日のみの参加も可能であり、今年度は医師2名・薬剤師1名・看護師11名の計14名の参加となりました。講義に加え、1日目のがん性疼痛事例検討や2日目のコミュニケーション・ロールプレイでは、患者役・医療者役・観察者役を体験しました。「患者役を体験することで医療者に求めていることを掘り下げて考える機会となった。」、また、「医療者役の振り返りでは日々の自己の関わりについて客観的意見を聞くことができ良かった。」という声が聞かれました。

ここで、受講者の感想を紹介します。



緩和ケア研修会に参加して

与謝の海病院看護師 中島 麻矢

「痛みはありますか？お薬は効いていますか？」がん性疼痛のある患者様に普段声をかける度に、どこか一方的な関わりになっているような気がして、心にひっかかるものがありました。今回の研修に参加しようと思ったのは、そんな普段の思いに対して何かヒントになるものが見つけれられるかもしれないと思ったからです。

研修内容はどれもとても興味深いものでした。特にコミュニケーション・ロールプレイは医師、看護師、患者役を自らが演じ、恥ずかしさもありましたが、日々自分が何気なく話している言葉も患者役をしてみると一言一言に大きく気持ちを動かされたり、受け止め方が違って来たりと、奥深いものがありました。座る位置でも相手の気持ちを变化させること、接触、手を握るなどのスキンシップも患者様の孤独感を和らげ、安心感をもたらすことにつながることも改めて実感しました。私達はい「沈黙」を避けようしますが、その「沈黙」も患者様の気持ちを落ち着かせたり、共感につながったりする非言語的コミュニケーションであり重要なことであるという、私にとっては大きな学びとなりました。

共感の意味とは、患者の気持ちを分かることではなく、気持ちを理解したことを伝えることなんだということ、日々の患者様との関わりの中で、私に足りていないものが少しずつ見えてきました。一方的な関わりも、少し時間をおいて、時には「沈黙」もいれて……そうすることで、探索、確認、共感と自然にコミュニケーションが成立し自分自身にも安心感ももてるようになりました。

今後も患者様とのコミュニケーションで悩み、つまづくことがあると思います。そんな時はこの研修会で学んだことを思いだし、自分らしく、患者様の心に少しでも寄り添えるような看護を目指していきたいと思っています。

これからも、緩和ケアを必要としている患者さまとご家族へ、いつでも、どこでも、質の高い「切れ目のない緩和ケア」が提供できることを目指して努力していきたいと思っています。

外来各科診察担当医表

(平成25年1月1日)

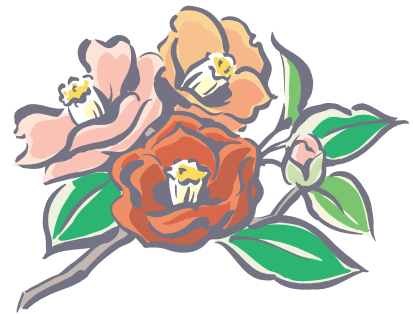
診察室	診療科	月	火	水	木	金	
11	総合内科	時田 和彦 副院長	丹羽 文俊 医長	大月 亮三 診療部長	本庄 尚謙 医長	(1,3,5週)城 正泰 医長 (2週)玄 泰行 副医長 (4週)土肥 統 副医長	
12	呼吸器内科	石野 秀岳 医長	大月 亮三 診療部長		石野 秀岳 医長	大月 亮三 診療部長	
	消化器内科			城 正泰 医長 (肝臓)			
13		玄 泰行 副医長	土肥 統 副医長		井上 健 副医長	加藤 萌由 医師	
14	循環器内科	本庄 尚謙 医長	川人 浩之 副医長	高田 博輝 副医長	木下 英吾 副医長	岸田 聡 副医長	
15	神経内科	丹羽 文俊 医長			丹羽 文俊 医長	大原 亮 医師	
26	精神科	小野 淳子 医師	上村 宏 医長	上村 宏 医長	上村 宏 医長	小野 淳子 医師	
23	小児科	西村 陽 副院長	来原 康通 医長	吉田 秀樹 副医長	西村 陽 副院長	小川 弘 医長	
18	外科	1診	午前:落合登志哉 副院長 午後:中村憲司 診療部長 (乳腺・新患)	担当医	當麻 敦史 医長	中村 憲司 診療部長	石井 博道 副医長
		2診	荻野 真平 医師		池本 公紀 医師		
22	整形外科	(1,5週)外村 仁 医長 (2週)森崎 真介 副医長 (3週)細井 邦彦 医師 (4週)吉岡 直樹 副医長	吉岡 直樹 副医長	森崎 真介 副医長	外村 仁 医長	細井 邦彦 医師	
17	脳神経外科		関本 達之 院長		谷山 市太 医師	法里 高 医師	
19	眼科	1診	水野連太郎 副院長	三重野洋喜 医師	小嶋健太郎 医長	小嶋健太郎 医長	水野連太郎 副医長
		2診	丹羽 匡世 副院長		丹羽 匡世 副医長	三重野洋喜 医師	
20	産婦人科	辻 哲朗 医師	小芝 明美 副医長	小柴 寿人 医長	(1,3,5週)小柴寿人 医長 (2,4週)小芝明美 副医長 午後:担当医	野口 敏史 副院長	
24	泌尿器科	粥川 成優 医師	問山 大輔 医長	問山 大輔 医長	粥川 成優 医師	問山 大輔 医長	
25	耳鼻咽喉科	1診	信原 健二 医長	信原 健二 医長	椋代 茂之 医師	信原 健二 医長	齋藤 敦志 副医長
		2診		齋藤 敦志 副医長		齋藤 敦志 副医長	
21	ペインクリニック		(2,4週)細川康二 医長				
16	皮膚科	今井 慎 医長		今井 慎 医長	今井 慎 医長	今井 慎 医長	

●受付時間/8:00~11:00

●閉診日/土・日・祝日(急患は、時間外でも診察)

医師異動情報

診療科名	転出(平成24年9月30日)	転入(平成24年10月1日)
整形外科	副医長 成田 渉 なりた わたる	副医長 吉岡 直樹 よしおか なおき
診療科名	転出(平成24年11月30日)	転入(平成24年11月1日)
外科	医師 大橋 拓馬 おおはし たくま	副院長 落合登志哉 おちあい としや
診療科名	転出(平成24年12月31日)	転入(平成25年1月1日)
整形外科	副医長 琴浦 義浩 ことら よしひろ	医師 細井 邦彦 ほそい くにひこ



【発行】京都府立与謝の海病院 【編集】与謝の海病院広報委員会 【問合せ先】庶務課
TEL/FAX 0772-46-3371 (代表) ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/yosanoumihp/>
ホームページから“お見舞メール✉”サービスがご利用いただけます。